

取組事例の紹介 ⑤



長野県教育委員会事務局教学指導課心の支援室

地域とともにいじめの問題を考える

長野県における公民館の設置数と利用者数は全国一という統計があります。また、公民館や青少年育成組織が主体となった体験活動などに多くの子どもたちが参加し、地域の子どもは地域で育てるという伝統が長野県に根付いていることが従来から指摘されてきました。

今回は、N中学校生徒会による「いじめ解消委員会」「N中いじめ追放人権宣言」と、公民館活動を通してN中におけるいじめ問題への取組を地域住民のみなさんとともに考えた事例を紹介します。

いじめ追放委員会の設置

N中学校いじめ追放委員会の設置は平成7年までさかのぼります。当時の全校集会において「いじめアピール」を行い、その後生徒集会や全校討論会、全校学習会授業などを経て、平成10年の生徒総会で「いじめ追放委員会」を新設します。

いじめ追放委員会はその翌年、「いじめ解消委員会」に名前を変え、「友達を作ろうワークショップ集会」「いじめ解消集会」など、さまざまな取組を行います。そして平成19年12月の生徒総会において「N中いじめ追放人権宣言」を採択するに至ります。



いじめ解消集会(平成24年6月4日)

いじめ解消委員を3年連続で務めたAさん

「小学校の頃、身近にいじめがあり、“絶対におかしい!”とっていました。中学に入ってこの委員会があることを知り、自分にできることがあるのではないかと思います。集会では大河内君の自殺事件について、傍観者の視点に絞って全校で考え合いました。」

「N中いじめ追放人権宣言」

私たちは「しない・させない・見過ごさない」の3原則で学校からいじめを追放します

1 学年・学級活動

お互いに注意しあえる関係づくりを心がけ、誰にも居場所があり安心して過ごせる学級をつくります

- ☆ 人の弱みや欠点を取り上げ、陰口を言ったり笑いものにしたりする卑怯な行為はしません。
- ☆ 好きになれない人に対しても思いやりの心を持ち、公平に接することができるようになります。
- ☆ 分け隔てない挨拶とコミュニケーションを心がけ1人で寂しい思いをする仲間をつくりません。
- ☆ 「キモイ」「ウザイ」「死ね」など、相手の心を傷つけるような言葉は使いません。

2 学習

人の間違いや発言を笑ったりするようなことは一切しません

3 清掃・給食・生徒会

誠実に頑張る人が悲しい思いをすることがない活動にします

- ☆ 清掃は自分との戦い、己の心を磨くものです。だから、話をする必要はありません。人を気に掛けず、無言で取り組み迷惑を掛けません。
- ☆ 給食は私たちの楽しみのひとつでありなくてはならないものです。たくさん命を「いただきます」。そして多くの人たちの苦勞からできています。だから、それを簡単に残したり、嫌いだからといって人に押しついたり、自分の好きなものだからといって人の給食を奪うことはしません。
- ☆ 生徒会は私たち会員の自治的な取り組みと協力によって成立しています。見えないところでも誰かが支え、頑張っています。その人たちを裏切るようなことはしません。

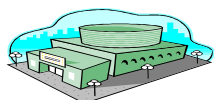
4 部活動

先輩は後輩を思いやり、後輩は先輩への礼儀を大切にします

- ☆ 部活動はそれをすることが好きな人が集まり、思いっきり打ち込んで大きく成長することができる場であり、先輩と後輩が身近に交流できる場です。先輩は後輩を教え導いてやるのであり、遣い走りをさせることはできません。部活動の目的に向かって先輩・後輩の立場を尊重し合い活動します。

平成19年12月26日 N中学校生徒会

公民館活動との連携



「いじめ追放人権宣言」を採択した翌月の平成20年1月、N中いじめ解消委員会は地元公民館で開催された家庭教育講座に参加します。平成23年5月の人権教育講演会では「誰もが安心して過ごせる学校に」という演題で公民館長さんが講演、平成24年9月には公民館主催の人権教育講座でいじめ解消正副委員長による取組報告および、いじめに関する意見文の発表が行われました。

いじめ解消委員会委員長

いじめを止めることで、今度は自分がいじめの対象になる怖さがあります。でも集会の中で“みんなで団結していじめを止めよう”という意見があり、自分も納得しました。

集会を開いていくうちに、どんどん新しい考え方が出てきて、一人一人の意識の高まりを感じます。

いじめ解消委員会副委員長

いじめ解消委員会以外の委員会(図書委員会・園芸委員会・福祉委員会など)でも、地域の方々と一緒に活動をしています。

地域の方々とのおいさつも増えましたし、これからも地域のつながりを大事に活動していきたいと思っています。

公民館講座に参加した地域の方々の感想

Bさん：地域でこのような会を持たれることがすばらしいと思います。地域の方々が自分の問題として関わることになるからです。いじめは一般的には子どもたちの問題ですが、実は私たち自身の問題でもあります。そこへつなげていくことが大事ではないでしょうか。

Cさん：いじめの問題は他人事ではありません。私たちの身近なことから立ち向かい、過ごしやすい社会を築いていきたいと思っています。いじめが起きるのは学校ばかりの責任ではありません。学校と地域の連携をとることで、過ごしやすい社会を実現する第一歩としたいです。

Dさん：学校ではいじめに関する実態調査やアンケート調査をしていますか。学期に1回きちんと調査をすれば、発見できることもありますし、そのような取組自体がいじめを防ぐことにもなります。先生方が子どもたちをしっかりと観察していくことも大切なことだと思います。